

◇視聴報告まとめ＜2017年2月8日号＞◇

テレビ朝日「報道ステーション」

・「トランプ合衆国」に行く

メキシコとの国境の街アリゾナ州アリヴァカにて現地取材。

国境への壁の建設、国境警備隊の配置を求める地元在住のトランプ支持者の男性へのインタビュー。有刺鉄線しかない牧場に続々と不法入国者が流入する。身の危険があるので常に銃を携帯。不法入国者の遺体を目撃した話など。

以下、スタジオでの会話要約

富川:まずは国境に住む男性の言葉を聞いていかがですか？

萱野稔人(かやの としひと 津田塾大学教授):私たちは移民反対派に対して「排外主義者」というイメージを持つが、でも不法入国者が実際に続々と入国し、物理的な被害に晒されている時に、地理的な制約によって保安官が頼りにならない、そういう状況で銃の所持や国境壁の建設を求めること自体はいい悪いは別として理解できるのではないか。当事者の視点に立つのが重要。

・欧州では移民問題が争点となっているが、移民に社会保障を与えた時に、既存の国民が「我々の生活はどうなるんだ?」「移民を入れる前にやることがあるだろう」と思うのではないだろうか。そのような事情を無視して、「排外主義者」の言説として扱うのはいかなものか。

・「トランプ大統領が保護主義者」という見方についても疑ってみた方がいい。トランプ大統領は自由貿易を否定しているわけではなく、貿易交渉について多国間の枠組みではなく二国間の枠組みで進めることがアメリカの利益に繋がるという考えがある。

・我々はトランプ現象や欧州の反移民の動きについて、当事者をバカにした報道をしてしまう傾向があるのではないか。その原動力になっているのは低所得低学歴でグローバル化の流れに対応できていない人々、という上から目線で独善的な見方で物事を見て、その枠組みで批判をして、溜飲を下げる報道が多い。もっと世界で起きていることをまず理解することが重要ではないか。上から目線で批判することはプラスにならない。統計を見ると高所得の人ほどトランプ大統領の支持が高いが、低所得の田舎者というように見下している報道が多い。

2017年2月8日

(検証者所感)

萱野教授が指摘する「トランプ現象や欧州の反移民の動きについて、当事者をバカにした、上から目線の報道」は、NHK ニュースウォッチ9の1月31日の放送などを見ても確かに見られる。この萱野教授のコメントのように、報道の全体的傾向への批判が報道に乘せられることは、放送法第4条1項4号が求める多角性の観点から歓迎すべき事だと思う。